

尙、蛇足ながら、ミツバノバイカオウレンはその最近縁者バイカオウレンとは、葉以外にも、花莖が帶紫色肉質無毛で瓣狀萼片の質もやや厚く葯は帶紅紫色を呈し高山の陽濕地に生ずる點で區別が明瞭である。また生育地ではミツバオウレンとは混生することがあるが、ミツバオウレンの花莖は葉柄とほぼ同じ太さ(彼は葉柄より太い)で初め少し褐色を帯びるが後淡緑となり微毛があつて葯は白色であるから、これとも見誤るようなことはない。悠齋の草木圖説卷十三葉黃連の條下に「嶺上(註、加賀山の)ニアルハ稍小ニシテ花橢圓五瓣殆ど五加葉黃連ノ花ト同クシテ、葯に淡紅暈アリ、半腹ナルハ、花瓣狭ク披針狀ニシテ葯白色」とあるのは、既にミツバオウレンとミツバノバイカオウレンの區別を認めていたことを示すものである。また辻氏萬花圖鑑7集856-c圖に示すミツバオウレンなるもの(白山の産)はミツバノバイカオウレンであつて、畫面にはその感がよく現われている。

ミツバノバイカオウレンがバイカオウレンのの小葉品でないとなると、眞のバイカオウレンの小葉3個のもの即ち、佐竹氏のいわれる「ミツバノバイカオウレン」にはまだ名がないことになる。

Coptis trifoliolata (Makino) Makino in Bot. Mag. Tokyo 28: 178 (1914).
Coptis quinquefolia β *trifoliolata* Makino, l. c. 24: 138 f. 14, 1-1'' (1910). *Coptis oligodonta* (F. Maek.) Satake in Journ. Jap. Bot. 24: 74, f. 1 (1949).

○飛島にグンバイヒルガホを得た(森邦彦) Kunihiko MORI: *Ipomoea Pes-caprae* Roth found in the coast of Isl. Tobishima, Yamagata Prefecture.

本誌第26巻第9號に佐藤正己教授は山形縣の吹浦海岸及七窪海岸でグンバイヒルガホが採集された事を書いておられるが、私は8月11-17日迄正味5日間、飛島で採集を行つた節、西海岸なる荒崎の僅か北方の海岸で子葉1枚と本葉4枚を附した本種を採集した。同島海岸を一巡したが只一本見出した丈であつた。飛島は前記の産地より更に北方に位しているが、ここにはタブの林があるので有名な所である。私はこの様にグンバイヒルガホは男鹿半島までは稀に發見せられるのではないかと考えている。

○千葉平地の植物(久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: An unusual distribution of plants found in Chiba Prefecture.

千葉縣の丘陵地帯は大部分開拓されて田や畑になりこの間に森や林があり、ここにしばしば昔からあつた様な意外なものが見出される。その例となるべきものとして私は津田沼附近の大和田にヒメヒゴタイの存在を指摘する。また千葉郡二宮町立山の麓にウシタキソウのあることも他の一例である。ここに資料として記録しておく。